



平成22年度 農林水産大臣賞

めん羊を核とした里づくり ～美しい自然と地域の和を次世代へ

『中沢めん羊の里づくり組合』

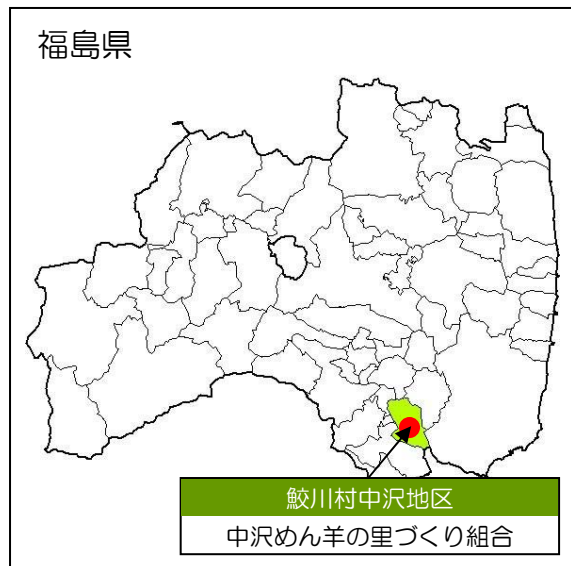
(福島県東白川郡鮫川村 中沢地区)

【むらづくりの経緯・動機等】

◆中沢地区は、鮫川村の中央部に位置する山間集落である。◆兼業化や高齢化が進み、集落の活力が失われつつある中、平成12年の中山間地域等直接支払制度の導入を契機に「昔盛んだっためん羊で集落の活気を取り戻しては」と集落の長老から提案があり、平成16年に「中沢集落めん羊の里づくり会議」を発足した。◆採算面等で一旦は挫折したが、村長から「財政的な支援はできないが村職員による全面的サポートを約束する」との言葉を受け、集落全員が再び前向きに考え

始め、現地視察により採算が取れるとの確信を得た上で、平成18年にめん羊飼育を開始した。◆平成19年には「中沢めん羊の里づくり組合」を設立して農用地利用改善団体の認定を受け、遊休農地を活用した放牧によるめん羊飼育の他、集落内の資源を活用し、ウメやカボチャなどの生産拡大や加工品の開発等も行っている。

<位置図>



【推進体制】

◆組合は集落内の全農家（16戸）により構成され、集落の「和」を大切にしたい運営を行っている。◆目指すむらづくりが集落全員にいつでもわかるよう、「遊休農地の活用」「集落の活性化」等、5つの目標を大看板に刻み、農事組合やJA、地元農産物直売所、商工会等と連携しながら、各種活動を行っている。◆また、鮫川村の第三次振興計画の「元気づくりモデル地区」に認定されており、専任の相談スタッフの助言等を受けながら活動を進めている。

<地区の概要>

事 項	内 容
地区の規模	集落（1集落）
組織の性格	地縁的な集団
農 家 率 (内訳)	88.9 % (総世帯数 18 戸) (農家数 16 戸)
販売農家数 (内訳)	16 戸 (専業農家 1 戸) (1種兼農家 1 戸) (2種兼農家 14 戸)
主要作目 (作付面積等)	養豚 (250 頭) 水稻 (6.3 ha)

資料：国勢調査、農林業センサス(H17年)

※作付面積等は鮫川村農林課調べ(H22年)

【農業生産面への寄与状況】



◆めん羊の放牧により耕作放棄地70aが解消したほか、子めん羊の出荷、ラム肉の生産・販売も開始され、好評を得ている。

◆めん羊の飼料は集落内の乾草や地元産の規格外野菜等を活用し、ふん尿は堆肥原料として利用するなど、地域内での資源循環型農業にも取り組んでいる。◆地域資源であるウメやカボチャ、オヤマボクチの栽培

拡大に取り組み、特に観賞用ウメの栽培は集落から大字単位に波及し、観光梅園化に向けた取組みに発展している。また、女性を中心にウメや凍みモチ(※)等の加工・特産品化の取組みも行っている。◆さらに、羊毛加工体験などを活用したグリーン・ツーリズムの取組み等、めん羊を核とした6次産業化の取組みも進めている。

【生活・環境整備面への寄与状況】

◆「自分たちの集落は自分たちで守る」という意識のもと、集落内の環境整備（水路や農道の清掃・草刈り・補修作業）や農村景観の保全活動（周辺林地の下草刈り）、神社境内の清掃などを非農家も含めた集落全体で行うことにより、農村の原風景が保たれている。◆また、都市部の大学生と共同で「集落CM」を制作し、インターネット



を通じて世界中に発信されており、学生との交流を深める中で、地域資源のすばらしさを再認識している。◆祭礼や各種行事では、集落の女性たちが里山料理を持ち寄り、お年寄りから子どもまでみんなで味わいながら、村の伝統や農業の大切さ、地元食材に対する感謝の気持などを次世代へ伝えている。

※ 凍みモチ

水につけたモチを一晩寒風に晒して凍らせた後、約1ヶ月乾燥させた伝統的な保存食。中沢集落の凍みモチは、オヤマボクチ（通称ゴンボッ葉）をつなぎとして練り込み、主に砂糖醤油などで食されている。

